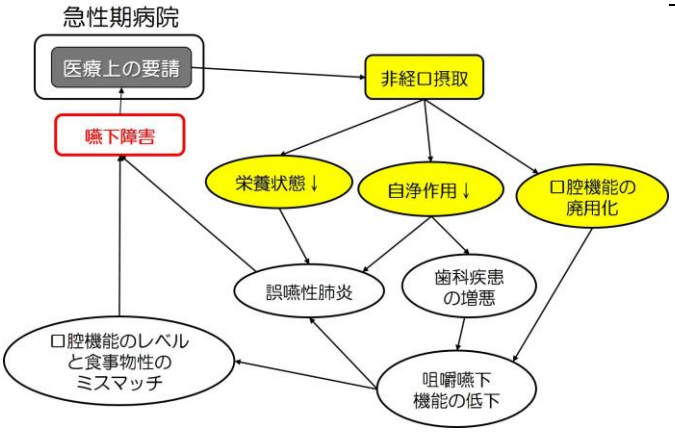
生命にかかわる「誤嚥性肺炎」を予防
食べられる喜びを一人でも多くの人に

訪問歯科センター NEWS LETTER

平成31年　冬号
川西市歯科医師会立訪問歯科センター
協力(一社)TOUCH
http://www.touch-sss.net/
住所:川西市火打 1-12-16
TEL:072-757-0418
FAX:072-764-6480



「舘村　卓著：摂食嚥下障害のキュアとケア　第二版（医歯薬出版）ならびに舘村　卓著：口腔ケアプログラムの作り方（永末書店）より」

非経口摂取での経過は非経口摂取を継続させる

今までに口から食べることの重要性をお話しました。それでは、経口摂取が困難になった状態で長期経過すると、どんな問題が生じるのでしょう。医療上の都合によって非経口摂取となったときに起こる問題点は、3つあります。

1. **低栄養**
2. **食物摂取による咀嚼がなくなると、唾液の分泌量が減少します。さらに食物繊維による口腔自浄作用が失われます。**

［唾液には、抗菌物質が含まれ、減少すると口腔内の清潔度は低下し、歯科疾患は重症化し、低栄養と一緒に直接的な誤嚥性肺炎の原因となります。］

3. **咀嚼嚥下機能を担う筋群の廃用化**

［咀嚼嚥下機能低下は、口腔衛生状態の低下と相まって誤嚥性肺炎の発症原因となります。誤嚥性肺炎や歯垢が原因の発熱の繰り返しは、重度の肺炎を誘発し、急性期医療機関での入院加療が必要となります。また、誤嚥性肺炎の治療のために非経口摂取は継続されます。］

「口腔機能療法としての口腔ケア」を行って、たまたま嚥下できるようになった場合でも非経口摂取期間があったことで、摂食嚥下機能は廃用化しています。咀嚼嚥下機能評価が不十分なまま常食を提供した場合には、窒息や誤嚥の問題が生じる結果、非経口摂取状態に戻ります。適切な口腔ケアによる介入を行うためには、この悪循環のどの部分を断ち切るかが重要です。では、適切な口腔ケアによる介入とはどの様なことでしょう。次回「口から食べることの支援は難しい～口から食べることは恐ろしい～」でお伝えします。

利用者様の声をご紹介します

お口の中がすっきりとして気持ちがよくなり、表情が良くなりました。　（緑台　80 代　女性）

歯のことを診てもらえるのも有り難いが、色々お話を聞いてもらえるので、毎週楽しみにしています。
（向陽台　70 代　男性）

なかなか歯医者さんに通えないし、自分でも口腔ケアできないので、家に来てもらえると本当に助かります。
（緑台　80 代　女性）

自分たちでケアしようと思ってもさせてくれない方が歯科衛生士さんだったら口を開けてくれます。
（施設　80 代　女性）

スタッフ紹介

一般社団法人川西市歯科医師会
副会長　　櫻井　章雄

平成 30 年 9 月当会立訪問歯科センターが、川西市ふれあい歯科診療所、予防歯科センターとともにキセラ川西プラザに移転しました。開設より 7 年目となり、皆様からの要望も多く、月に延べ 1000 回におよぶ訪問回数となっています。常勤歯科衛生士 3 名と川西市歯科医師会地域歯科衛生士グループ“カミングハーモニー”の協力のもと、訪問車両 6 台を有し、訪問診療・口腔ケアを行っています。現在休職中の歯科衛生士さんへ、「口から食べる」で生活支援に携わってみませんか。お待ちしております。